住まい活動助成

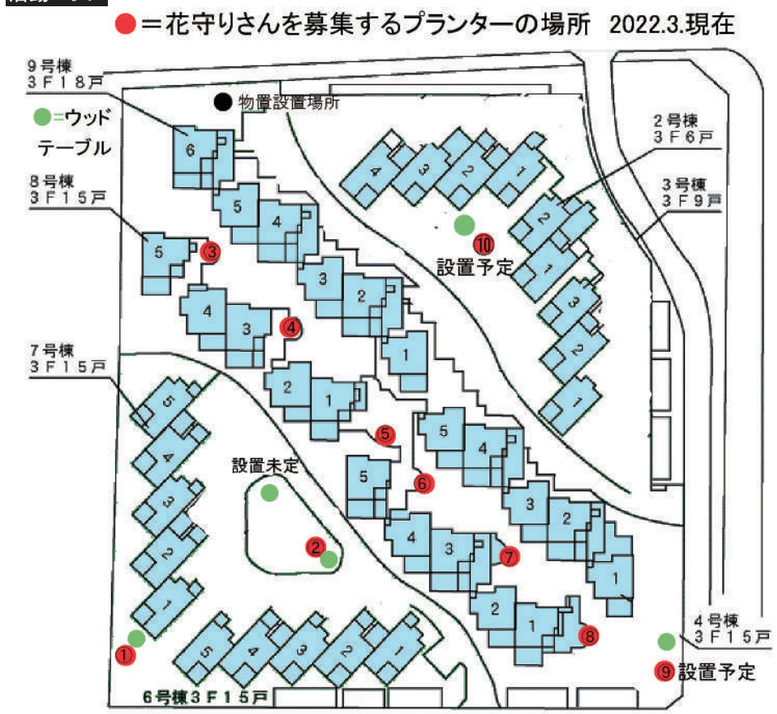
小野崎団地　ローズマリーの会

茨城県つくば市

住民ボランティア組織が行う県営住宅団地の環境美化運動

芝生を綺麗に手入れされた小野崎団地。低層3階建て、全120戸。戦後の日本建築史を代表する建築家の1人、内井昭蔵の設計で1985年に完成した

活動エリア



団体設立経緯

「**ローズマリーの会**」は、元気な住民（シルバー層）を中心とした高齢者の生き甲斐づくり、団地内の美化と交流の場づくりを目的としたボランティア組織です。つくば市内の県営住宅「**小野崎団地**」の環境美化の観点から草刈り、花植えなどを主体的に行う任意ボランティア団体として、2020年4月に立ち上げました。

芝刈りにあたるローズマリーの会のメンバー

活動概要と活動対象範囲

小野崎団地は他の公営住宅に比べて芝生面積が広く、綺麗に整備すると、美しく広がる芝生と建築家の故・内井昭蔵氏が設計したこだわりの建物が際立ちます。芝刈りや草刈り、花植えなどの活動を通して、住民主体で団地の建築資産の価値を維持し高めていくだけでなく、住民同士の交流を活発にすることも目指しています。活動範囲は小野崎団地内の共用部分と、隣接した市道の芝生樹木に限定します。

活動に至った理由や背景

当団地は住民の高齢化や外国人入居者、シングルマザー、闘病中の方、体に障害を抱える高齢者などの増加と、広すぎる芝生の整備が自治会費の負担となり、整備が追い付かない状況です。

夏には荒れた状態になるのに加え、住民交流施設（自治会館）がないことが高齢者の孤立、外国人家族の孤立化などを招いています。団地コミュニティの不活性な状況の解決を目指し、住民有志で当会を立ち上げました。

活動内容と成果

1. 助成金の対象団体に選ばれたことを住民に広報

助成金で何をするかを、文章と

画像合成で作成したイメージ。会報の7月発行号に掲載して住民に知らせ、反応を探った

画像合成のイメージ写真で説明しました。綺麗に芝刈りした芝生に助成金で購入予定のベンチやテーブルを設置して、屋外に交流できる場づくりを提案。反対意見が出るのかなど、このお知らせで住民の反応を見ました。

幸い反対意見は出ませんでしたが、様子を見ているのだろうと油断せずに、慎重な行動を心がけました。伝え聞く話では好意的な意見が出ているとのことで、活動テーマが間違ってはいないと確信。活動当初は誤解からいろいろ批判されましたが、これまでの2年にわたる芝刈りなどの地道な活動の成果が、信頼に結びついたのだと思います。設置に関しては茨城県の許可も受けました。

2. ベンチなどの設置

事前に住民にお知らせした屋外設置用のベンチ、テーブルセット、花植えプランターを助成金で購入。メンバーで組み立てて、団地内に設置しました。実際に設置してみると、「そこに設置されては困る」などのクレームがあり、迅速に対処し設置場所を移動しました。

設置した写真などは会報に掲載しました。その結果、クレームと好意的な意見の両方の反応がありました。クレームに関しては対応できるものは対応し、難しい案件については様子見を続けています。

3.「小野崎アパートメントフェス2022」の開催

団地の写真と、建築を学ぶ学生などを対象とした図面などを展示します。2022年2月に開催する予定で準備を進めましたが、茨城県と東京、近県の新型コロナウイルス感染拡大の影響で、メンバーの感染予防とフェス来客者の感染の危険性を考えて延期いたしました。同時に開催する予定であった東京大学の大月敏雄教授の講演会も延期し、ともに同年8月に開催する予定です。

フェスを開催する件で管理者の茨城県に協力を求めた結果、図面を提供いただきました。時を同じくして県が設計者の内井昭蔵を評価して、小野崎団地（正式名称は「小野崎アパート」）を建築遺産として後世に残していくべく、長寿命化工事に踏み切りました。ローズマリーの会の活動テーマと、方向性が一致していると感じ勇気づけられました。

ローズマリーの会のメンバー

助成金で購入したウッドテーブルやベンチ、プランターなど。敷地内の各所に設置した

課題と解決方策

屋外にテーブルセットを設置しましたが、住民は遠巻きに、カーテン越しに見ているだけで利用しようとしません。

交流サロンとして屋外テーブルで自然に雑談をすることは、想像以上にハードルが高いようです。初めての物に対する抵抗感がなくなるには、1～2年ぐらいの時間がかかりそうです。知らない人が座って居たとのクレームは静観しています。時間が解決すると思います。

テーブルやイスを自然に使っていただけるようにするために、一緒に設置した花植えプランターに花を植えて管理する**花守りさん**を募集することにしました。ボランティアで担当を決めて、プランターの花などを管理することと、屋外に設置したイス、テーブルを掃除して愛着を持ってもらう事を期待しています。

この件を会報で事前の告知をした時に、早速「やりたい」のコールが何件かあり、幸先良いスタートになったかと思いました。しかし、コロナ禍で「小野崎アパートメントフェス2022」が延期になり、花守りさんの募集も延期になりました。改めて22年6月頃の募集になると思います。

テーブル設置で「人の話し声がうるさい」とクレームが来ていた件に対しては、声を落とすようにお願いする看板をテーブルに設置して様子見です。

今後の予定

コロナ禍で延期になった展示会を「小野崎アパートメント・サマーフェス2022」として、8月5日から8月8日の4日間の日程で開催します。初日の5日には記念イベントとして、東京大学の大月教授の講演会も開催。同教授には、小野崎団地の建築遺産としての価値と集合住宅の高齢化問題を、講演会のテーマとして依頼しています。近隣の高齢化している住宅団地や他の県営住宅の自治会メンバーなどにも告知して参加を促し、高齢化問題を共有したいと考えます。

資金面では、つくば市の「アイラブつくばまちづくり補助金」に申し込み、助成を受けることができました。また引き続き、ローズマリーの会の活動メンバーを募集していきます。花守りさんをメンバーに入れると、10名増加になる見込みです。

小野崎団地　ローズマリーの会

2020年4月設立／メンバー数：8人／代表者：三浦 一憲（みうら・かずのり）
rosemary.ctcenter.org/news.html

住民のボランティア主導で、県営住宅団地の芝刈りや花植えなどの環境美化活動を実施。住民同士の交流を促し、コミュニティの活性化を目指します。